
横浜のイベントをエコにする ガイドライン09



横浜のイベントを エコ にするネットワーク

INDEX

【ガイドライン】

あいさつ	P2
「横浜のイベントをエコにするガイドライン09」の活用方法	P3
イベントをエコにする6つの要件と実施フロー	P4
イベントをエコにする具体的方法	P5
◇全体として考えなければならないこと	
◇実施項目一覧	
◇企画・準備段階	
◇実施において	
◇イベント終了後	
◇イベント情報登録&結果報告	

【資料編】イベントをエコにする具体的取り組み

エコステーション導入	P10
リユース食器導入	P16
ボランティアによる運営のすすめ	P28
めざせ!三方よし広報	P29
横浜のイベントをエコにするネットワークの取り組み	P32



あいさつ

「横浜のイベントをエコにするガイドライン09」は、横浜で開催されるイベントを、すべて環境に配慮した形で行なわれるものにするためのガイドラインです。イベントにおいて出されるごみを削減し、ごみの散乱・投棄を減らし、使用される電気・石油エネルギーを減少させ、自然環境・周辺環境を考慮して行うことで、結果的に周辺住民、主催者、出展者、参加者などイベントに関わる全員が、イベント実施中および実施後に幸せな気持ちになれることを目指しています。

イベントそのものを消極的にさせるものではなく、われわれの暮らしの場である地球環境を意識することで、発展的に人々のつながりを促し、イベントから発信するメッセージをより高いレベルに引き上げるものです。その場限りのものではない、環境においても、人々の共感を得るということにおいても、持続可能なイベントを作り出すことにもつながっています。

イベントは、参加・体験・体感を通して人々の心に直接訴えかける力があります。その意味でイベントはメディアであると私たちは考えます。主催者から参加者までさまざまな立場の人が作り上げていくイベントであれば、一方に向かうメディアではなく、それぞれがそれぞれの中で感じ取り確認していくメディアであるといえます。イベントを行なうこと、そこに関わる人全員で社会や自然を考えていく。そしてそれが横浜から発信されることで、世の中に対して価値のあるメッセージとして伝わり、それを受けた人々がそれぞれの場所で活動を始め、それが世界そのものを動かしていくほどの力を持つ。イベントにはそれだけの力があり、このガイドラインがその一助となることを期待しています。

主催者および協賛団体は、「このイベントは横浜のエコイベント・ガイドラインに準拠している」という一文を告知に入れることで、前もって世の中にメッセージを伝えることもできます。それはそのイベントのイメージを向上させるだけでなく、参加者自身の心にもエコイベントを共に作り上げる意識を芽生えさせ、主催者と参加者の間がより詰まった一体感のある開催につながるのではないかと考えています。

それぞれの持つ役割があり、そしてそこから環境に関してできることを明確にしていく。主催者、出展者、参加者、協力団体、協力企業などそれぞれの立場でできることを検討し、よりよいイベントを作り上げ、そこから強靭なネットワークができていくであろうことを、このガイドラインは夢想し熱望しています。

このガイドラインは生き物です。今後も活用される方々の意見や経験を受け、よりよい形へと成長・発展していく思いを抱いています。

2008年12月10日
横浜のイベントをエコにするネットワーク
会長 近澤 弘明



「横浜のイベントをエコにするガイドライン09」の活用方法

「横浜のイベントをエコにするガイドライン09」とは…

「横浜のイベントをエコにするネットワーク」が、横浜のイベントをできるだけ環境に配慮して実施していくための知恵をまとめたものです。前半はイベントをエコにするために配慮したい項目とその具体的な方法を整理したガイドライン。後半は、資料編として「エコ・ステーション」「リユース食器」「広報」等についての具体的な取り組みを紹介しています。特に「エコ・ステーション」「リユース食器」については、2008年に実際にイベントを行った経験をもとに、失敗点、反省点も含めてまとめました。これからイベント開催をする方々が、無駄な失敗を繰り返さなくとも良いように、細かいところまで書き込みましたのでぜひ参考にしてください。なお、ごみの分別等は横浜市を基準にしていますので予めご了承ください。

ガイドラインは、2009年、2010年と、さらに経験を重ねて、ブラッシュアップしていきたいと考えています。皆さんも「ガイドラインに沿ってやってみたけれど、○○だった」というような実施結果をぜひお寄せください。次年度版の内容に反映させていきます。また、ガイドラインの使い方、生かし方等でご質問、ご意見などがありましたら、遠慮なく事務局にお問合せ下さい。

「横浜のイベントをエコにするネットワーク」とは

横浜のイベントをエコにするネットワークは、横浜で開催されるイベントを環境に優しいものにしようと立ち上がったネットワーク組織です。市民・企業・行政が協力して、ごみの削減など環境に負荷がかからないイベント運営の仕組みなどを研究・提言し、市民や企業の実践につなげていくことをめざしています。

あなたのイベントを応援します

イベントでのエコの取り組みをお寄せください！

横浜のイベントをエコにするネットワークでは、このガイドラインを活用し、イベントのエコに取り組む横浜のイベント主催者を応援します。

.....横浜のイベントをエコにするガイドライン09を活用すると、こんないいことが.....

- ガイドラインに掲げているステップ1、ステップ2の項目を1つでも実施できるイベントは、情報登録していただけます。
情報登録するとイベント広報やボランティア募集広報などのサポートを受けられます。(情報登録は7,8ページをご覧ください)
- 情報掲載予定媒体
☆「横浜のイベントをエコにするネットワーク」のホームページ
☆「横浜のイベントをエコにするネットワーク」メンバー関連のホームページ、SNS「ハマっち!」、メルマガ「はまじゃん」ほか
☆「月刊リサイクルデザイン」(発行:横浜市資源リサイクル事業協同組合、月8万部発行)
※ただし、原稿の分量や、締め切りなどの都合で掲載できないことがあります。
- ごみの分別など、イベントのエコ化の取り組みは、コスト削減にもつながります。
- 環境への意識の高いイベントとしてイメージアップにもつながります。
- 相互に協力できるつながりができます。
- もちろん、地球もHAPPY！

*イベントをエコにしたいけど、どのようにしたらできるんだろう？？

*エコステーションを導入したいけど、どのように設置したらよいの？？

*リユース食器はどこに行けば借りられるの？？

*ボランティアはどうやって集めたらよい？？

などなど

ガイドラインを読んでご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせ、ご相談ください。



イベントをエコにする6つの要件と実施フロー

イベントをエコにする6つの要件

イベントをエコにするために考えるべき項目を大きく6つの要件に整理しました。私たちは何に気をつけなければならぬのか、何をすべきなのか、ということを把握するための大まかな印象をまずつかんでいただけたと思います。

1.ごみの発生抑制・リサイクル推進

イベントには多くの人が集まるため、大量のごみが発生する可能性がありますが、これを極力抑制するようなシステムをつくります。すぐに捨てられてしまうものや再利用できないものはできるだけ使用せず、発生が避けられないごみはリサイクルへ回すなど適正に処理する必要があります。

2.省エネルギー・省資源推進

不必要的エネルギーを削減します。必要な場合においても、風力発電等の環境への影響の少ない新エネルギー利用を模索し、省エネルギー型設備を使用するなど、イベント開催における資源の使用量削減に努めます。また、物品の購入、広報のしかたなども、極力資源の無駄使いにならないように考慮します。

3.自然環境・周辺環境への配慮

イベントの企画段階から、自然環境や周辺環境に充分配慮して、環境への負荷が少ないイベントを実施します。自然環境にはできる限り手を加えず、やむを得ず加えてしまった場合には、復元に努めます。

4.移動及び輸送手段における環境負荷低減

イベント参加者に、交通手段を環境負荷の少ないものを選択するよう呼びかけます。乗用車利用ではなく、電車・バス等のエネルギー効率のいい交通手段、あるいは徒歩での移動を推奨し、交通による環境負荷が少なくなるよう会場設定も考慮します。

5.参加者への環境意識啓発

参加者にもイベントを通じて環境配慮への取り組みに協力を求めます。また、イベントそのものを環境配慮意識の普及向上や、環境教育の機会として活用します。

6.ボランティアの参加

イベントのエコ化に取り組む際、主催者、出展(店)者、関係者、地域の方など、様々な方の理解と協力が不可欠です。中でも運営にボランティアがかかわっていただくことは、マンパワーとして重要であるだけでなく、主催者側の意識啓発、参加者に対する意識啓発のいずれに対しても効果が高く、エコ化を加速させる原動力ともなり得ます。ただし、ボランティアを「安価な労働力」とみなすことは逆効果です。

実施フロー





イベントをエコにする具体的方法

全体として考えなければならないこと

1. このイベントが本当に必要かどうか考える
2. 主催者は、環境配慮やごみ処理についての方針を決める
(それによって、出店者がごみを持ち帰るか、主催者が引き受けるか等違ってきます)
3. 環境配慮を推進する責任者を決めて、進行管理を行う
4. 実施計画、運営マニュアル等では、環境配慮項目を明記し、スタッフ、ボランティア、出店者等に環境配慮の趣旨を充分伝える
5. 二酸化炭素やごみ総量などデータを把握することを心がけ、改善材料とする。また、写真等の記録もとる

実施項目一覧

イベントをエコにするための具体的な実施項目一覧です。

●はステップ1: お金をかけなくても、ちょっとした工夫で可能のことです。必ず行うようにしてください。

◎はステップ2: 少しお金と手間が必要ですが、ここまでやれば、素晴らしいエコイベントです。ぜひ、取り組みをお願いします。

	A.企画・準備段階	B.実施において	C.イベント終了後
①ごみのサイクル生産抑制	●イベント方式を工夫 ●ごみの総量を量る	●ごみ持ち帰り推奨 ●マイバッグ、マイ食器の呼びかけ ●スタッフの食事等にも工夫 ●7分別のごみ箱を用意 ◎エコストレーション→P10へ ◎使用ブースなどへのリユース食器導入 ◎リユース食器→P16へ	●出展者にごみ処理と清掃の義務化 ●今後の減量化について検討 ●余った配布物等を再資源化 ●主催者は分別後の後追い調査
②省資源エネルギー推進	●適正な設備や機器を使用 ●環境配慮型商品を購入 ●省エネ設備や機器を使用 ◎新エネルギーの導入	●照明、冷暖房に配慮	●今後の省エネ対策を検討
③環境への影響周辺	●周辺環境への影響を把握 ●他のイベントとの共催を模索 ◎既存施設を活用 ◎開発は最小限に	●排水、騒音等に配慮 ●植樹や魚の放流等での配慮	●会場の清掃 ◎会場周辺の清掃
④環境おもてなし及び荷物輸送手段	●公共交通機関が利用できる会場選び ●公共交通機関の利用呼びかけ ●シャトルバス等の用意 ●必要備品は近隣から調達	●公共交通機関の案内を徹底 ●アイドリングストップ呼びかけ ●イベント開催時間配慮 ●近隣の駐車場案内を徹底 ◎低公害車の活用	●今後の改善方法を検討
⑤環境参画意識への啓発	●エコイベントであることを宣言 ●広報について配慮→P29へ ●発注先や事業者には、環境配慮企業を優先 ●来場者が参加しやすい仕掛けを検討 ◎市民、NPOのアイデアを募集	●実施している活動をわかりやすく説明 ◎会場一斉清掃等、全員参加プログラム工夫 ◎環境教育の機会として活用 ◎企業のCSR活動の機会として活用	●報告書を作成し、アピール ●成果をアピール
⑥ボランティアの	●ボランティアの参加できる場を検討 ●ボランティア募集方法、募集要項などボランティア運営に必要な計画をたてる ●ボランティアの呼びかけと事前のコミュニケーション ◎事前プログラム、ワークショップなどの実施 ◎ボランティアへのインセンティブの用意	●ボランティアへの作業内容等の確認 ●ボランティアの状況把握とコミュニケーションなど運営管理 ●当日参加者への呼びかけ (次回へつなげる)	●ボランティア反省会・交流会の実施 ◎ボランティアの組織化 ◎次回準備にむけて、早い段階でのボランティアの起用

【A. 企画・準備段階】

① ごみの発生抑制・リサイクル推進

- なるべくごみが出にくいイベント方式を採用します。
- データを把握できるような企画内容にし、ごみの量を量ります。ごみの総量は基本的に自分たちでカウントしますが、廃棄物業者がカウントしているので教えてくれます。

② 省エネルギー・省資源推進

- 機器を使う時には、規模にあったサイズのものを使い、出店者隣同士で共有を検討するなど、数を減らす努力をします。
- 必要備品の調達は、環境に配慮した商品を優先的に購入します。
- 節水型トイレや雨水利用システム等の省資源型設備のレンタルや設置を検討します。
- 施設の整備時には、太陽光発電や風力発電など、新エネルギーの導入を検討します。

③ 自然環境・周辺環境への配慮

- イベント開催が、自然環境へどの様な影響を与えるのかを考えます。
- 他イベントとの共同開催を行い、環境に与える影響を抑制できないか考えます。
- 会場の選定に当たっては、既存施設の活用に努めます。
- イベント開催のために開発を行う場合は、自然環境への影響を最小限にとどめます。

④ 移動及び輸送手段における環境負荷低減

- 会場の選定は、公共交通機関の利用を最大限考慮して行います。
- 広報を行う際に、公共交通機関、自転車、徒歩での来場を呼びかけます。
- 公共交通機関の利用が困難な場合には、シャトルバス等の代替手段を確保します。
- 必要備品は、できるだけ近隣から調達します。

⑤ 参加者への環境意識啓発

- 環境に配慮したイベントであることを宣言し、広報の際にも明記します。
- 広報、当日配布する資料についても環境に充分配慮します。→広報については P29 参照
- 出展者、協賛、スポンサーには、環境配慮に積極的な企業を優先して依頼します。
- 来場者が参加しやすい仕掛け(参加者がリユース食器の洗浄等)を考えます。
- 企画の段階で、環境配慮に関心の高いNPOや市民からの参画をはかり、アイデアを広く募ります。

⑥ ボランティアの参加

- ボランティアが参加できる場面を検討します。その際には、主催者側の役割、ボランティアの役割を明確にします。
- ボランティア募集方法、ボランティア運営に必要な計画をたてます。
- ボランティア募集の際には、作業内容やスケジュール等の情報に加えて、当日の連絡方法などは事前にお知らせし、コミュニケーションをとっておきます。
- イベントの意義やエコの取り組みなどがわかる事前プログラムやワークショップを実施します。
- スタッフユニフォームや記念品、昼食券など、ボランティアへのインセンティブはできるだけ工夫して用意します。

●はステップ1:お金かけなくても、ちょっとした工夫で可能なことです。必ず行うようにしてください。

○はステップ2:少しお金と手間が必要ですが、ここまでやれば、素晴らしいエコイベントです。ぜひ、取り組みをお願いします。

【B. 実施において】

① ごみの発生抑制・リサイクル推進

- 参加者のごみの持ち帰りを呼びかけます。
- マイバッグ、マイ食器の利用や簡易包装の呼びかけを行います。
- スタッフの食事などには、ごみの出ない工夫をします。
- ごみ箱を設置する場合は、7分別のごみ箱を用意し、分別を呼びかけます。
- 会場にエコステーションを設置し、来場者にごみの分別を呼びかけます。→エコステーションについては P10 参照
- 使用するブースなどは、リユースできるものを使用します。
- リユース食器を使う →リユース食器については P16 参照

② 省エネルギー・省資源推進

- 会場の照明や冷暖房は、会場の広さやイベント内容に応じて、適正な調整を行います。

③ 自然環境・周辺環境への配慮

- 発生する排水、騒音、振動、臭気等が周辺の環境を損なう恐れがある場合は、環境への配慮を優先し、その発生を抑制するための取り組みを行います。
- 植樹や魚の放流を行う際は、生態系に充分配慮します。

④ 移動及び輸送手段における環境負荷低減

- 公共交通機関の案内を徹底させます。
- 駐車場や会場内でのアイドリングストップの呼びかけを行います。
- 交通渋滞を引き起こさないように、イベント開催時間を適切に設定します。
- 会場近辺で駐車場が確保できない場合や、渋滞が予測される場合は、周辺の駐車場案内を徹底させます。
- 会場内の移動や資材の輸送手段には、低公害車を活用します。

⑤ 参加者への環境意識啓発

- 会場内で実施している環境配慮活動を、来場者にわかりやすく示します。
- 会場一斉清掃等、参加者全員が参加できるプログラムをイベントとして実施します。
- 環境関連の団体と積極的な連携を図るなど、イベントを環境配慮意識の啓発や環境教育の機会として活用します。
- 企業のCSR活動の機会として活用します。

⑥ ボランティアの参加

- 当日ボランティアの作業内容、指揮連絡系統を明確にし、正確に伝えます。
- 当日の状況を見て、ボランティアの健康・安全管理を行うと共に、密なコミュニケーションをはかります。
- ボランティアから参加者にイベントの意義を伝え、次回のボランティア参加を呼びかけます。

●はステップ1:お金をかけなくても、ちょっとした工夫で可能なことです。必ず行うようにしてください。

○はステップ2:少しお金と手間が必要ですが、ここまでやれば、素晴らしいエコイベントです。ぜひ、取り組みをお願いします。

【C.イベント終了後】

① ごみの発生抑制・リサイクル推進

- ごみについて計測されたデータをもとに、どう減らせるかの可能性を考えます。
- 出店者には、出店要件に自らが発生させるごみの回収やイベント終了後の清掃を義務付けます。
- 終了後、主催者や出展者は、余った印刷物等を持ち帰り、再資源化します。
- 分別後のリサイクル・処理についての実施状況を把握します。

② 省エネルギー・省資源推進

- エネルギー消費量等のデータをもとに、今後の省エネ対策について考えます。

③ 自然環境・周辺環境への配慮

- イベント終了後、会場の清掃活動を行います。
- イベント終了後、会場周辺の清掃活動を行います。

④ 移動及び輸送手段における環境負荷低減

- 交通手段の活用状況を計測し、今後の改善手法を考えます。

⑤ 参加者への環境意識啓発

- 出展者や参加者へのアンケート調査等を行い、イベント終了後1ヶ月以内に報告書を出し、インターネット等で情報共有します。
- 成果を積極的にPRし、他のイベントにおける環境配慮に貢献します。

⑥ ボランティアの参加

- ボランティアや主催者、関係者が集まっての反省会・交流会を実施します。
- メーリングリストや地域SNSなどで、イベント終了後もボランティアと情報共有できる体制をつくります。
- 次回に向けて、早い段階からボランティアに参画していただく体制をつくります。

●はステップ1:お金をかけなくても、ちょっとした工夫で可能なことです。必ず行うようにしてください。

○はステップ2:少しお金と手間が必要ですが、ここまでやれば、素晴らしいエコイベントです。ぜひ、取り組みをお願いします。

イベント情報登録＆結果報告

イベントを実施する際は、情報登録を、また事業終了後は結果報告を横浜のイベントをエコにするネットワークへお送りくださるようお願いします。

イベント情報は次のページの情報登録用紙に必要事項を記入し、ファックスまたはメールでお送りください。また、結果報告は、9ページの実施報告書に実施状況をまとめて記入し、お送りください。



FAX 045-489-4768

横浜のイベントをエコにするネットワーク事務局 行

エコイベント情報登録用紙

イベント名			
開催場所	施設名		
	所在地	横浜市	区
開催時間	開始：平成	年	月
	終了：平成	年	月
主催者			
連絡担当者	所属・役職		
	氏名		
	電話		
	ファックス		
	メールアドレス		
イベントの概要 (50 文字程度)	<p>ホームページ http://</p>		
エコへの取組項目 (取り組むものにチェックをし、[] 内に具体的な内容をご記入ください)	<p><input type="checkbox"/>ごみの発生抑制・リサイクル推進 (<input type="checkbox"/>エコステーション <input type="checkbox"/>リユース食器 <input type="checkbox"/>その他)</p> <p><input type="checkbox"/>省エネルギー・省資源推進</p> <p><input type="checkbox"/>自然環境・周辺環境への配慮</p> <p><input type="checkbox"/>移動及び輸送手段における環境負荷低減</p> <p><input type="checkbox"/>参加者への環境意識啓発</p> <p><input type="checkbox"/>ボランティアの参加</p> <p>その他、特に取り組むこと、工夫していることなど</p>		
その他、ご意見などあれば			



FAX 045-489-4768

横浜のイベントをエコにするネットワーク事務局 行

エコイベント実施報告書

イベント名		
主催者		
連絡担当者	所属・役職	
	氏名	
	電話	
	ファックス	
	メールアドレス	
取り組み結果（データなど）、よかった点、反省点、今後に向けた見直し、提言など		

*写真や資料など実施状況がわかるものを添付してください

【資料編】イベントをエコにする具体的取り組み





エコステーション導入

■ エコステーションとは？

エコステーションとは、ごみの種類ごとに分別して捨てることができるごみの集積所です。エコステーションを設置することで、発生するごみをできるだけ分別回収・リサイクルするとともに、来場者に対し、分別回収の呼びかけや実践などを通じて、環境意識の向上を図ります。

- ・スタッフが常駐するエコステーションを設置し、来場者への周知を行います。
- ・来場者がエコステーションでごみを分別できるようにナビゲーションします。
- ・分別されたごみは資源回収業者に渡し、リサイクル可能なものについては、リサイクルします。



▲エコステーションは目立つこと！



▲こんなボードを用意すれば、わかりやすく、伝わりやすい

■ なぜエコステーションが必要なの？

イベントでは「なぜごみの持ち帰りを呼びかけないのか？」と問いかけられることがあります。確かに自分が出したごみは自分が責任をもって持ち帰ることが基本です。横浜では、ごみの持ち帰りを呼びかけ、極力ごみ箱を設置しなかつた取り組みをしたことがあります。しかし、大規模なイベントでは、駅までの道端や周辺地域に大量のごみが捨てられてしまい、地域や周辺店舗の課題へと発展してしまいました。特に花火大会などの不特定多数の参加者が集まる大きなイベントでは、ごみの持ち帰りを呼びかけるには限界があり、ごみ箱を置かないことがごみ散乱につながるケースが多かったという経験がありました。

横浜のイベントをエコにするネットワークでは、エコステーションを設置することは、環境に配慮したイベントを実施するための第一歩と考えています。なぜならば、エコステーションを設置することで発生するごみをイベント会場でできるだけ分別回収・リサイクルすることができるからです。また、来場者に対する分別回収の呼びかけや実践などは、環境意識向上へとつながります。エコステーションの設置は、イベント会場のごみを減らすだけでなく、横浜市民の意識を変える、横浜がより環境にやさしいまちへと変わっていく機会になるとを考えます。だからこそ、横浜のイベントをエコにするネットワークではエコステーションの設置をお勧めするのです。

■ 効果は？

エコステーションを設置することで、ごみの発生を防ぎ、ごみを資源化し、イベントでのごみを削減することができます。分別することでイベントで出たごみを削減できます。

【エコステーションの設置なし】

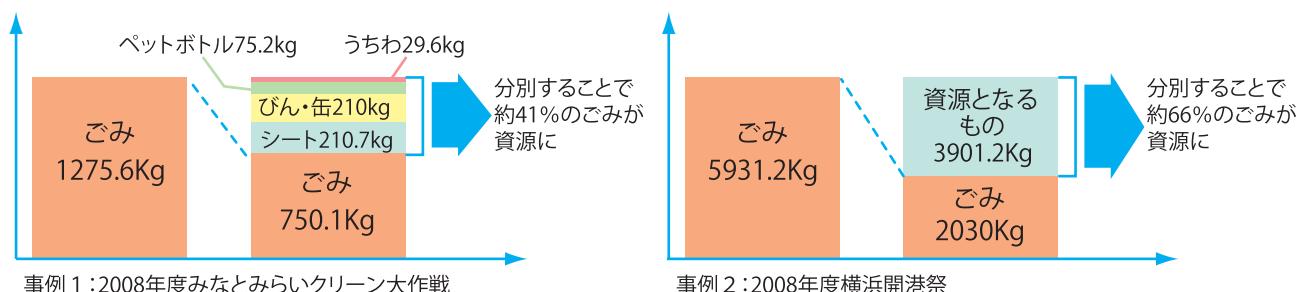


▲2006年神奈川新聞花火大会翌日の臨港パーク(みなとみらい地区)

【エコステーションの設置あり】



▲2008年神奈川新聞花火大会翌日の臨港パーク(みなとみらい地区)



■エコステーション導入にあたって

(1) 準備するもの

①テント

エコステーションを設置するために使います。テントがあることで、スタッフの休憩もできます。



▲テント

②ごみ回収 ボックス

分別の数に合わせて用意します。イベントの規模に応じて大きさや容量などを決めます。



▲ごみ回収 ボックス

③のぼりや看板など

会場内のどこから見てもエコステーションだとわかるように看板を設置します。

- ・広い会場内ではエコステーションの案内を高く掲げると見やすくなります。
- ・スタッフが持つ呼びかけるのも効果的です。



▲大きなイベントではコンテナで

④分別の表示

種類ごとに表示を用意します。リサイクルできるものはリサイクル後にどのようになるか表示してみるとわかりやすいです。



▲エコステーションは目立たせて

⑤拡声器

分別を呼びかけます。屋外は声が通らないのでメガホン(拡声器)は必需品です。



⑥バケツ・ざる

飲み残し、食べ残しを入れます。

- ・食べ残しを落とすゴムべらがあると便利です。

⑦消耗品

ごみ袋、軍手、ゴム手袋、ガムテープ、マジック、雑巾、その他

⑧その他

- ・トランシーバー、救急箱など、その他イベントに応じて必要なものを用意します。
- ・スタッフユニフォーム、少なくともスタッフ証は必ず用意しましょう。

●本部テント の設置

エコステーションを数か所に設置するような大きな会場の場合は、本部テントを設置することをお勧めします。

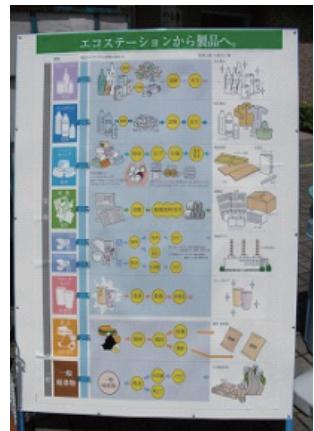
本部テントでは、各エコステーションの状況を把握し、臨機応変な対応ができるように、トランシーバー、ホワイトボードなどを用意し、ごみの状況の記録も行います。また、飲み物などを用意するほか、ボランティアが情報を共有できるように工夫をしましょう。



▲参加者にどれだけ呼びかけられるかが大事。メガホン(拡声器)は必需品!



▲分別表示は、イラストでわかりやすく。並び順にも配慮。



(2)ごみ箱の容量と設置の選定

イベントの規模に応じてごみ箱の容量と設置数を決め、人の流れを考慮して場所を選定します。

①エコステーション以外のごみ箱は閉鎖します

普段使用している常設のごみ箱等は原則閉鎖して、エコステーションにごみは一本化します。ただし、常設のごみ箱がある場所にはごみが集まりやすいので、エコステーションの位置の案内板を置くなど工夫します。



▲イベントの規模に合った容量のごみ箱が捨てやすい位置に配置されていない。

②ごみ箱は導線上に設置します

ごみ箱が導線上（人が歩く道沿い）に設置されていないと、ごみが捨てれません。ごみが捨てられないと自然と、道端などにごみが捨てられてしまいます。

ポイント!

ごみ箱は、出入口、人が集まりそうな場所（ステージ付近）、トイレ前、模擬店・飲食スペース付近などに配置しましょう！



▲イベントで捨て切れなかったごみが道端や地域のごみ箱に自然と集まってしまう。

③ごみ箱は設置場所を工夫します

スタッフによる呼びかけができるように、会場内でのごみ箱及びごみ箱前のスペースの確保をしましょう。

また、スタッフが配置できるように安全な場所であることや野外では直射日光などがあたりすぎていないかなど、安全面を考えた配置を心がけます。

ポイント!

- ごみ箱付近は、人が通れるスペース、呼びかけできるスペースを確保する。
- スタッフが活動できるような配置を心がける。（安全面など）



▲神奈川新聞花火大会終了後のエコステーション

④ごみ箱の容量はイベントの規模にあったものにしましょう！

イベントの規模にあったごみ箱を設置しましょう！

ごみ>ごみ箱になってしまふと呼びかけをしたとしてもごみ箱はあふれてしまいます。



▲国際花火大会山下公園のゴミ箱



▲花火大会では大きなコンテナもうずもれてしまう。
(下:花火前、上:花火後)

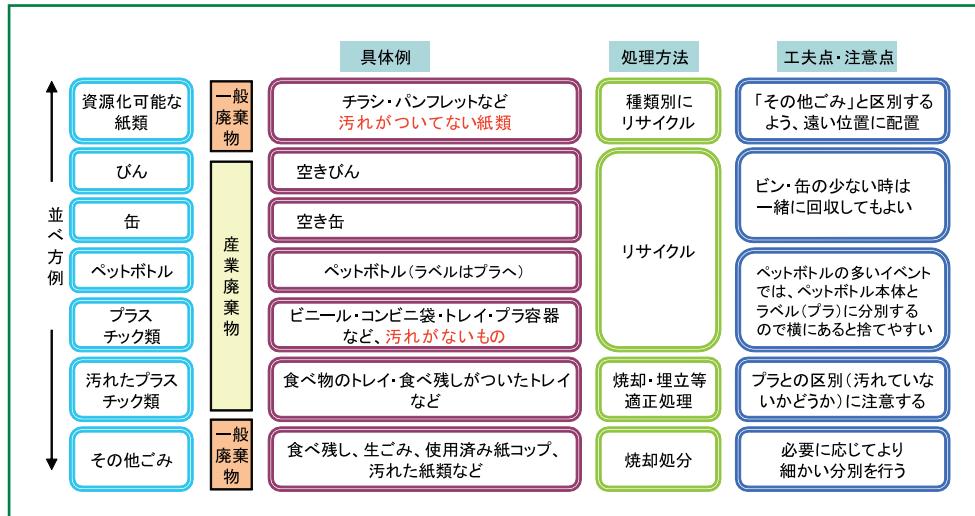


(3) 分別するごみの種類と処理についての検討

分別は原則7種類とし、それぞれのごみの処理先を確保します。

①ごみの種類と並べ方の工夫

ごみの種類は原則7分別（下記参照）ですが、来場者が捨てやすいようにイベントで出そうなごみを想定し、その並べる順番を工夫します。



②ごみの種類を増やすとしたら

ごみの種類は原則7分別ですが、イベント内容や必要に応じて増やすこともあります。ここではいくつかの例を示します。

a. ペットボトルのキャップ

⇒キャップをはずして、回収・リサイクルし、海外の子ども達にワクチンを提供できます。

b. わりばし

⇒模擬店などが多いイベントでは別途回収して、紙などへリサイクルします。

c. 多いごみを想定してごみ箱を設置する

⇒花火大会などではたくさんのブルーシートがごみとなるので、ブルーシート回収用のごみ箱を設置します。その他イベントによってゴミの種類を想定し、ダンボールなどのゴミを回収するためのボックスを用意します。

d. リユース食器

⇒会場内でリユース食器等を利用するイベントでは必要があればエコストーションでも食器の回収を行います。（「リユース食器導入」P.17へ）

③処理・処分について

イベントからでるごみは事業系ごみにあたり、産業廃棄物と一般廃棄物の2つに分類されます。イベント主催者は産業廃棄物と一般廃棄物、それぞれの収集・運搬と処分の許可をもっている業者と契約を結ぶ必要があります。

▼詳細は、下記にご相談ください。

横浜市資源リサイクル事業協同組合（通称リサイクルデザイン）

TEL 045-444-2531/FAX 045-444-2532 <http://www.recycledesign.or.jp>

◇横浜市内の許可業者については下記を参照してください。

【一般廃棄物収集運搬業者】

<http://www.city.yokohama.jp/me/pcpb/data/dat23.html>

【横浜市産業廃棄物処理業者】

【Web検索システム】

http://www.city.yokohama.jp/me/pcpb/sanpai/Web_kensaku.html

(4) エコステーションの周知の工夫点

エコステーションの存在が来場者にわかるように看板やマップの作成など、工夫してアピールしましょう。

まずは、エコステーションの位置や分別のしかたを知ってもらおう！

せっかくエコステーションを設置しても、エコステーションの位置がわからなければポイ捨ては減りません。また、エコステーションでの分別が来場者に伝わらないとごみ箱前での分別には限界もあります。会場内での十分な周知がエコステーションを機能させるには大切です。

ポイント!

- ・エコステーションの位置をイベントマップで知らせる。
来場者に配布するイベントのプログラムや会場マップ、会場内に設置する会場案内看板などにエコステーションの位置や分別の種類などを記載しましょう。



・会場のアナウンスやステージで知らせる

イベント会場でのアナウンス、ステージでのインフォメーションなどで参加者に分別を呼びかけるのも効果的です。



・エコステーション周辺での呼びかけ

エコステーションでは分別を呼びかけますが、混雑するイベントなどでは、ごみ箱前に来てから分別するには限界があります。エコステーションより少し離れた場所からエコステーションの位置や分別の種類を知らせることで、来場者も分別の準備ができる、スムーズにごみを捨てるることができます。
看板などを持って呼びかけるなど、参加者の目に付くような工夫も必要です。

(5) エコステーションでのスタッフの役割

エコステーションを運営するには各ステーションに4～6名のスタッフが必要です。

《エコステーションスタッフの活動内容》

●開始前

- * 分別の種類やローテーション、エコステーションの位置、全体のイベントの内容、トイレ、飲食ブースの位置など基本的な情報の確認をします。
- * 用意した備品類を運び、エコステーションの準備をします。

●回収の開始

捨てに来た人に分別のナビゲートを行います。

* 原則的にごみを捨てる本人に分別してもらいましょう。

* 言っても分別しない人には、トラブル回避のため無理強いしないでスタッフが分別することもあります。

* ボックスがいっぱいになつたら、袋を閉じ、ごみ袋を変えます。
その際、「正」の字などを書いて、回収したごみ袋の個数を記録します。

●終了後の仕事

* 備品類を片付けます。

* ごみの量を測量します。

* 適正にごみを処理します。

【活動スケジュールについて】

- ・イベントの企画・スケジュールを立て、スタッフの活動内容・時間を決める。
- ・スタッフは各エコステーションに4～6名、1時間程度活動を行い交代。休憩も取る。
- ・エコステーションが複数ある場合は、いくつかのステーションに配置されるようにシフトを組む。
- ・野外での活動は熱中症などのスタッフの体調管理や安全管理に注意する。

NO	時間	プログラム	会場	備考
1	10:00	臨港パーク場所取り(テント確認) 飲み物購入	臨港パーク	待機場所を確保する
2	12:00	花火大会開催決定 エコステーションの設置		
3	13:00	学生→スタッフ集合 打ち合わせ	支C	
4	14:45	スタッフ集合		3番テント集合
5	15:00	第1部活動開始 ※原則2人1組で1時間、ごみ箱前で活動を行う。活動がない人は休憩所で待機		* 休憩時間あり
6	19:00	第1部活動終了 (周りの状況を見て判断)		臨港パーク入場制限(封鎖)
7		花火大会を見る	臨港パーク	テント①、テント②の2班に分かれて花火を見る
8	20:30	第2部活動開始		・人が殺到するので安全面に注意して活動する。 ・2～3人1組で動く。(単独行動禁止) ・各ごみ箱にパンフの清掃員がつき ます。ごみの回収等は基本おまかせいたします。
9	21:30	第2部活動終了		・エコステーションの撤去(状況をみて) 本部にまとめておく。

▲2008年みなとみらいクリーン大作戦スタッフ資料より

【参考】横浜市のイベントでのごみの分別

横浜市では、平成22年度のごみ排出量を平成13年度に対し30%減らすという目標をたてました。市民・事業者の皆さんと一緒にごみの減量・リサイクルをすすめ、循環型社会の形成をめざす「環境行動都市の創造」に取り組みます。

詳細⇒横浜市資源循環局

<http://www.city.yokohama.jp/me/pcpb/>

横浜はG30

Gomi	ローマ字のごみ
Garbage	英語のごみ
Gentyou	ローマ字の減量
30	ごみ削減目標の30%

横浜市各種データ(横浜市資源循環局より)

◆横浜市のごみの量について⇒<http://www.city.yokohama.jp/me/pcpb/data/>

◆G30の成果:ごみ組成調査「横浜のごみを見てみよう」

⇒<http://www.city.yokohama.jp/me/pcpb/shisetsu/shigenkai/gomisosei/>

◆G30の成果:ごみの分別による効果

⇒<http://www.city.yokohama.jp/me/pcpb/shisetsu/shigenkai/lca>

《イベントでのごみ分別》

イベント会場から出るごみは、「**事業系廃棄物**」であり、主催者が責任を持って、分別・リサイクルをする責任があります。

ごみ減量イベントマニュアル

⇒ <http://www.city.yokohama.jp/me/pcpb/g30/eventgomi/>

事業系廃棄物とは…

「事業活動に伴って発生した廃棄物」を指します。

(横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理に関する条例第4条第1項)

→**事業系一般廃棄物**

…法令で定められた20品目を除く事業系廃棄物

→**産業廃棄物**

…特定の20品目を指す

■資源循環局が進めるイベントごみの分別



資源物
→資源化ルートへ

産業廃棄物→燃やすごみに混ぜてはいけない!

横浜市の
焼却工場へ

区分	品目	主な対象物	処理方法
一般 廃棄物	紙類	チラシ、パンフレット、紙製の菓子箱、紙パック	種類ごとに分別しリサイクル
	その他のごみ	割り箸、紙コップ、生ごみ、汚れた紙	焼却
産業 廃棄物	缶	空き缶	リサイクル
	びん	空きびん	リサイクル
	ペットボトル	ペットボトル	リサイクル
	プラスチック類	プラスチック製容器、発泡トレー、ビニール袋、葉子袋	できるだけ リサイクル

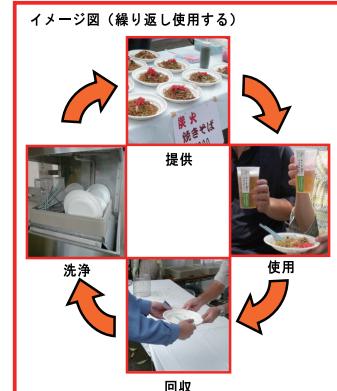
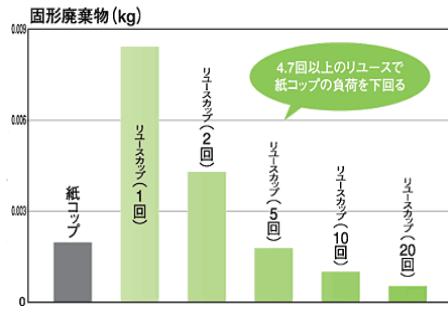
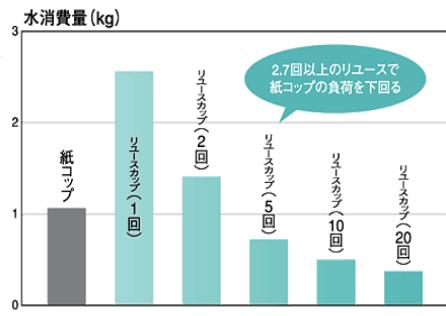
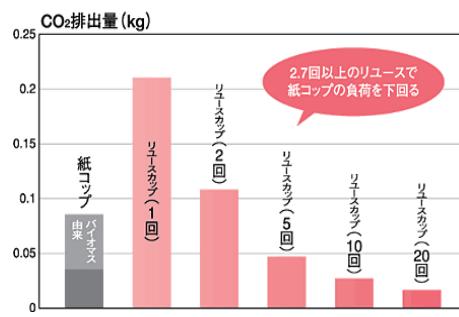
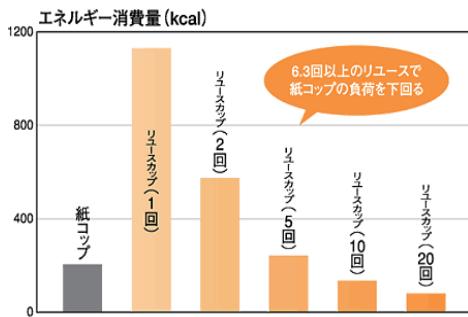


リユース食器導入

■リユース食器は複数回使ってこそ意味があります！

リユース食器とは、飲食を伴うイベントで使い捨て容器の代わりに使用されるもので、使い捨てではなく洗うことにより何度も繰り返し使用可能な食器のことです。リユース食器に特別の規格はありませんが、繰り返し使用が可能で、落としても割れにくい素材が適切です。お皿やお椀などにはメラミン素材が、カップやスプーンにはポリプロピレン製のものが多く使われます。リユース食器は石油を原料とするものが多く、一定回数以上使用しなければ、使い捨て製品（紙コップなど）よりも環境への負荷が大きくなってしまいます。つまり、回収率がポイントで、回収率が悪いと使い捨て製品よりも環境負荷が大きくなってしまいます。

『リユースの回数に応じた環境負荷（使い捨て紙コップと比較）』



リ『Re』再び + ユース『use』を使用する
＝リユース『Reuse』再使用する

■リユース食器の利点は！

①同じ食器を何度も繰り返し使うのでごみを削減できます！

イベントで発生するごみのうち大部分を占めるのが、飲食提供に使用された使い捨て容器です。リユース食器を使用することにより大幅なごみの削減が実現できます。

②使い捨て食器を購入したり処理したりする費用が削減できます！

購入費が必要なくなります。また、処理費用は容量あたりで計算される場合が多く、使い捨て容器は重さはないが、かさばるので容量が他のごみと比べ多くなります。使い捨て容器を削減することにより処理費用も削減できます！

③市民への環境啓発効果やイベント主催者等のイメージアップ効果が期待できます！

リユース食器は実際の利用者からその意義が高く評価されています。環境に配慮した姿勢を来場者へアピールする有効な媒体として利用できます。

■運営方法は2通り!

(1)食器貸出方式

借りて、使って、**返却するだけ**



※洗浄は返却後、専用の洗浄工場で行う。



▲使います。

(2)食器・洗浄設備貸出方式

借りて、使って、**みんなで洗って、返却します**



会場で



▲回収します。



▲会場で洗浄
(下は食器洗浄機)



▲数を確認し梱包・返却。

会場内に洗浄ブースを設営します!

衛星管理や省資源での洗浄を行うために高温水・少水量での洗浄が可能な食器洗浄機を使用する場合が多いです。その場合には、会場に洗浄スペース・給排水・L P ガス・電源が必要になります。出店者への貸し出しや回収もここで行なうことが可能です。

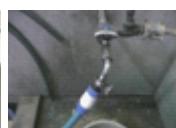
設置場所は電源、給排水の状況次第となるので、それに合わせて、貸し出し、回収は別の場所にする場合もあります。



▲洗浄ブース



▲食器洗浄機



▲給水



▲排水(汚水)



▲LPガス



▲電源

■リユース食器導入のポイントは3つ!

①出店者への協力要請!

リユース食器を導入する場合、主催者や来場者の理解も必要ですが、実際にリユース食器を使用して飲食を提供する出店者の協力が最も重要になってきます。出店者の協力なくしてリユース食器の導入は不可能です。ここがうまくいけば、8割成功!

②回収率!!

リユース食器は何度も繰り返し使用しなければ、かえって環境負荷を増加させます! 回収率を上げるために企画・準備が必要になります!

③来場者への協力呼びかけ!

リユース食器を使用していることをパンフレットなどでアピールすると同時に会場内で定期的にアナウンスし、来場者に積極的に利用してもらうことも大切です。

■ポイント1 出店者への協力要請

事前の出店者説明会での協力要請が重要!

リユース食器の趣旨を説明するとともに、リユース食器を使用した場合の留意点も説明したうえで協力を得る必要があります。出店者に対しては、リユース食器を使用することにより販売方法に影響を与える可能性があることへの理解を求めるとともに回収について協力してもらう場合もあります。出店者の理解と協力があれば、リユース食器導入は成功します。

『導入にあたっての留意点』

①重ね置きができない

リユース食器には蓋などがないため、重ね置きができません。販売ピーク時間に合わせた作り置き方法に工夫が必要になってきます。

②テイクアウトへの対応

持ち帰りの来場者への対応が必要になります。販売時に『食べていますか？持ち帰りますか？』などの声掛けや容器を分けて販売する必要があります。

※持ち帰りが多い傾向にあるイベントではリユース食器の導入を見送る場合もあります。

③来場者への声掛けや回収協力

来場者へ直接リユース食器の返却について呼びかけられるのは出店者です。販売時に『食後は返却してください』などの声掛けをお願いすることになります。また食器の返却に来た来場者への対応もお願いすることになります。

- 【重ね置きへの対処例】
- ・スペースがあれば、平らに置く
 - ・パレットに保管し販売時食器に移して販売する。
 - ・作り置きの必要がない豚汁やスープなどから導入してみる など

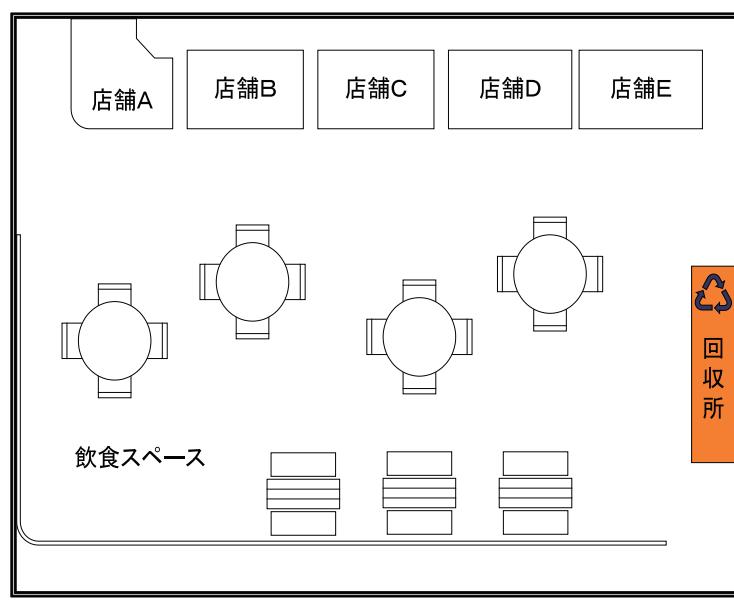


■ポイント2 回収率

①会場レイアウト

回収率を上げるには、来場者にとって食後に返却しやすい食器回収場所を配置できることがポイントです。店舗の近くに飲食スペースを設け、スペース内に回収所を設置できるのが理想的です。

【注意点】飲食スペースが設けられない場合には、エコストーションでの回収を行う場合が多いですが、来場者は食後、買った店へ返却する傾向があります。エコストーションへと案内するのか、店舗で回収するのか、両方で回収するのか運営方法を徹底することが重要です！



▲理想的な会場レイアウト

②デポジットシステム

販売価格に食器代をデポジットとして上乗せして販売します。来場者が食器を返却したらデポジットを返却します。回収率を上げる効果だけでなく、紛失した場合の担保にもなります。

【注意点】主催者・出店者・来場者の間で現金のやりとりが発生しますので、事前調整や当日の運営には注意が必要です。



【回収率アップ例】



□出店者への回収協力・出店ブース内で回収
直接、来場者へアプローチできるので回収率が上がります!



□エコステーションにて回収容器に写真を貼った
写真付なので返却しやすくなり間違えて捨てられる可能性が低くなります!



□当日の来場者の流れを見て臨時に回収所を設けた
実際の人の流れを見れるので回収率が飛躍的に向上します!

【デポジット制導入フロー】

- * デポジット100円で、店舗で回収をしない場合
 - イベント開始までに
 - 小銭準備
(事前に主催者が準備する)
 - 小銭を回収所のスタッフに預ける
 - 出店者は主催者へ使用予定食器数×100円を支払い食器を受け取る
 - 出店者は来場者へ100円上乗せして飲食を販売する。

■ イベント終了後

- 出店者は食器が余った場合は主催者へ返却する。
- その際、主催者から返却数×100円を受け取る。
- 主催者は来場者からの回収数と出店者からの返却数を把握する。
- 主催者は回収所から余った小銭を受け取る。
- 清算する。

※注意点

出店者・来場者・運営スタッフの間で現金のやりとりがあるので専門のスタッフを配置する必要があります。

■ポイント3 来場者への協力呼びかけ

出店者からの協力呼びかけ!

リユース食器を使用する来場者へは直接アプローチできる出店者の声がけが最も有効です!

会場での広報!

パンフレットや会場内アナウンスでアピールします。

また、会場内や店舗でリユース食器を使用していることをアピールします。



▲場内掲示



▲店舗での掲示



▲会場を巡回



▲定期的な場内アナウンス



▲リユースカップデザイン例

【ホントにあった!
運営トラブル例】

●出店者への説明不足と協力が得られなかった場合

- ・リユース食器を全く利用してもらえない。
- ・回収していることを知らずに『捨てないで使ってください』と来場者へあげてしまう。

- ・来場者への回収協力呼びかけが全くない。そのため、大部分の来場者が仕組みを全く理解できずに食後には捨ててしまった。

●運営スタッフへの説明が不足している場合

- ・エコストーションでの回収を行っている場合に、スタッフへの説明が不足していて、リユース食器の種類や形状を知らないため来場者が返却に来ても食器を捨ててしまった。

●デポジット制での段取り不足

- ・出店者、主催者とも小銭不足に陥る

■会場で洗浄する場合の作業の流れ

①リユース食器を中性洗剤を入れた洗いおけに入れ、スポンジで洗浄する

- ・付着物や油分の除去
- ・飲料の食器などは口紅の付着が多いので、飲み口部分の汚れに注意する



▲スポンジで洗浄

②食器を次亜塩素酸ナトリウム入りの洗いおけに漬けて消毒する

- ・中性洗剤のすすぎ及び除菌:/ロイアル・O157
- ・漬け置きの目安は2分間
- ・消毒液には素手では触らない



▲消毒

③専用ラックに食器を入れ、食器洗浄機で高温水洗浄を行う

- ・水温90°C
- ・一度に洗浄する食器の数が少ないと水がむだになるため、ラックが一杯になってから洗浄機にかける
- ・洗浄機内で食器が飛ばないように、金属ネットでふたをする
- ・洗浄を行うと水温が下がるので、こまめに洗浄機内の水温を確認する
- ・水温が低い(85°C以下)場合は、温度が上がるまで待つ



▲ラックが一杯になつたら

④洗浄後、乾燥させる

- ・洗浄が終わった直後の食器は熱くなっているので、取り出す際に注意する
- ・洗浄機から取り出すときに食器の水気をよく切る
- ・食器は専用の台に並べて乾燥させる



▲高温で洗浄

⑤乾燥後、汚れがないか確認し、専用収納コンテナへしまう

- ・洗浄が不十分な場合は、洗いなおす



▲十分に乾燥

■スタッフは①～④(食器の洗浄)と、⑤・⑥(乾燥・収納)を行う人に分かれて作業する。

■すべての作業において、ゴム手袋を着用します。

資料1:出店者説明会資料例(1/4)

平成 年 月 日

出店者 各位

リユース食器使用協力について(ご案内)

循環型社会を目指す3R推進活動としてイベントでのリユース食器の使用にご協力をいただきたいとご案内させていただきます。

つきましては、使用方法等のご説明をさせていただきますので、ご理解、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

概要

1 イベント名:

2 日 時:平成 年 月 日() :00 ~ :00

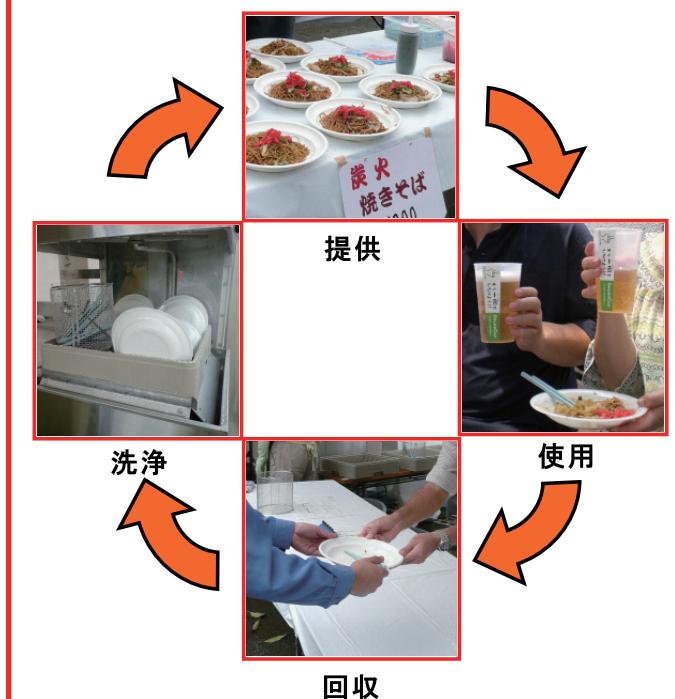
3 場所:

4 リユース食器について

飲食を伴うイベントで使い捨て容器の替わりに使用されるもので、使い捨てではなく洗うことにより何度も繰り返し使用可能な食器のことです。

リ『Re』再び、ユース『use』使用する。リユース『Reuse』再使用するという意味です。

イメージ図(繰り返し使用する)



資料1：出店者説明会資料例(2/4)

5 リユース食器の導入による効果

(1)ごみの量を減らし、資源を節約できます。

(2)イベントでリユース食器を使用することで参加者や来場者へリユース意識の啓発ができます。

6 留意点

(1)回収率

リユース食器運営では回収率が重要になります。紛失数を最小限に抑えるためには、各店舗の皆様の声掛けのご協力が回収率のアップにつながります。

飲食を提供する場面での『食後は食器を必ず返却してください』『食器はエコストーションに返却してください』等、可能な範囲でかまいませんのでご協力をお願いすることになります。

(2)持ち帰り(テイクアウト)への対応

リユース食器と持ち帰り用容器の使い分けが必要になります。持ち帰りのお客様が多い傾向にあるイベントでは出店者の方の負担が増えてしまうので使用を見送る場合があります。

(3)作り置き

焼きそばなど、使い捨て容器では、ピーク時に合わせて作り置きが可能ですが（重ねて置くことが可能）、リユース食器では重ね置きができないため、作り置きした商品を並べる広さが必要になります。

7 運営方法等

(1) リユース食器の流れ

飲食提供に使用後、エコストーションにて回収し、イベント会場内で洗浄を行います。（出店者の皆様が回収する必要はありません）。

(2)提供食器数

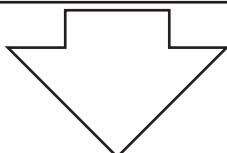
10時～15時までのイベントでは、回収・洗浄後の食器を再度店舗へ配布することはありません（洗浄後は梱包します）。したがって、各店舗で予定している提供食数分の食器数をイベント当日の開始前に配布します。

資料1:出店者説明会資料例(3/4)

参考資料

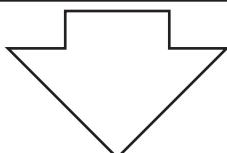
リユース食器使用の流れ(イベント当日)

各店舗へ予定数量のリユース食器をお届けします。伝票にて配布数量確認 9:00~

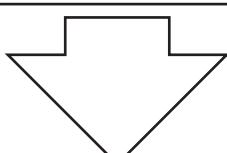


例) 盃M500枚 箸500膳提供
 盃M: 500
 箸 : 500 伝票記載

リユース食器を使用し、販売してください。※販売時、食器回収の声掛けをお願いいたします。

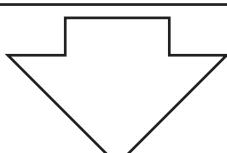


回収はエコストーションにて行います。店舗での回収を行う必要はありません。



例) 食器を返却されそうになったら
『エコストーションへ返却してください』
とアナウンスしてください。

もし不足してきた場合はお知らせください。食器をお届けします。伝票再発行。



例) 下記連絡先: までご連絡ください。
直接、洗浄ブースまで来ていただいても
かまいません。

終了時(売切終了含)、余った場合には、数量確認後、伝票を最終発行し、使用数量を確定します。

例) 開始時提供500枚 余り100枚
 $500 - 100 = 400$ 枚
400枚使用 最終伝票発行

イベント当日:リユース食器に関する連絡先

電話:

資料1:出店者説明会資料例(4/4)

資料-確認書

リユース食器使用確認書

**FAX:
行**

使用団体名		
担当者		
連絡先		
使用数量	ペタルカップ(540mℓ)	個(提供品)
	コーヒーカップ(200mℓ)	個(提供品)
	どんぶり(145mmΦ×70mm)	個(提供品)
	どんぶり(小)(125mmΦ×50mm)	個(提供品)
	皿M(220mmΦ)	枚(提供品)
	皿S(190mmΦ)	枚(提供品)
	箸	膳(提供品)
	スプーン	本(提供品)

お問い合わせ先**電話:****E-mail**

資料2：当日配布時添付資料例（1/1）

リユース食器使用協力出店者 各位

リユース食器について（お願い）

イベントごみ減量への取り組みとして、リユース食器の使用にご協力いただき、ありがとうございます。使用に関して注意事項をお知らせいたします。ご査証ください。

1 リユース食器の受け取り

種類・数量をご確認のうえ、受領書にサインをお願いいたします。
食器入れコンテナは、イベント終了後、スタッフが回収に伺います。

2 リユース食器の回収は店舗で行う必要はありません。

回収はエコストーションにて行います。もし来場者が返却に来た場合は、エコストーションへ返却するよう伝えてください。

- ※ 頻繁に返却に来てしまう場合は回収し店舗に保管してください。
- ※ スタッフが巡回時に引き取ります。（スタッフは必ず巡回します）

3 来場者への呼びかけをお願いいたします。（重要！）

回収率を上げるため、販売時に「食後は必ず食器を返却してください！」など、できる範囲でかまいませんので、呼びかけをお願いいたします。

お問い合わせ先

連絡先：

まで

リユース食器についてお願ひ!!

使い終わった食器は必ず
回収所へ返却してください！

ごみ減量への取り組みとして、
使い捨て容器の代わりに
洗うことにより繰り返し使用できる
リユース食器を導入しています。

地球にやさしいイベント運営にご協力を





ボランティアによる運営のすすめ

エコステーションやリユース食器を運営していくには主催者だけでなく、関係者・参加者・出店者・地域の方など、様々な方の理解と協力が必要です。その1つとしてボランティアとして運営に関わってもらうことも大切です。

◆準備

- ・企画のコンセプトを作る ⇒活動のねらい、ボランティアの役割を明確にします。
- ・ボランティア受入の準備をする ⇒どのくらいの人数が必要なのか、受け入れることができるか(交通費、食費、宿泊費、Tシャツなど 必要に応じて用意する)
- ・ボランティアの受入の意味を主催者内、関係者内で明確にする。



◆募集する

- ・活動内容を決め、ボランティアを募集する ⇒参加者を募集するには地域の市民活動センター、ボランティアセンターなどに連絡をしてみましょう!
- ・募集要項では、活動の目的・日時・活動場所・活動場所への交通手段・集合時間・募集条件・募集人数・参加者が負担するものと主催者が負担するもの・申込先・募集締切日・雨天時や中止の有無・オリエンテーションの有無・問い合わせ先、などを明確にします。
- ・オリエンテーションの実施 ⇒ねらい、活動内容・ボランティアのルールと役割を伝え、ボランティア同士の顔合わせなどを行います。



◆当日の運営

- ・チーム分けをする⇒リーダーを決めてチームごとに管理をすると運営しやすい。
- ・シフトを組む ⇒誰もが迷わず参加できるように! 無理をさせない参加方法。
- ・スタッフはわかりやすい格好をする
⇒ボランティアスタッフは同じTシャツを着るなどして、来場者や会場関係者が一目でわかる格好をすることが望ましい。
- ・安全管理に配慮する(休憩時間の確保、野外では熱中症などに注意する)
- ・連絡体制をしっかりする
⇒体調不良時、緊急時、トラブルが起きた時、どこに、誰に連絡をすればよいか。
- ・達成感の共感 ⇒活動を行うことで、どのような効果があったのか、感謝の気持ちを伝え、達成感を共有する。



◆イベント後

- ・活動終了後に交流会、反省会の実施 ⇒活動後も交流会や反省会などを行い、ボランティア同士の顔の見える関係を大事にし、次回の活動へつなげていく。



【事例】 明治学院大学戸塚まつり

明治学院大学(横浜校舎)で学生・地域・教職員の3者で開催されるコミュニティフェスティバル「戸塚まつり」では、ごみを分別するリサイクルステーション(ごみ箱)を設置し、D R P (Dish Return Project)というリユース食器を使用します。そこでは、出店料が無料の代わりに、模擬店などを出店する地域の参加者には、リサイクルステーション・DRPの運営スタッフに参加する事が義務づけられています。主催者である大学生スタッフと一緒に運営することで交流ができるだけでなく、出店者からは「自分達の出したごみがどのように捨てられるのかわかった」「自分の模擬店はごみが多くたので、少なくしよう」と言った声があがり、来場者だけでなく、出店した参加者にとっても環境に配慮したイベントを考えるよい機会となっています。ボランティアによる運営だけでなく、このような方法も意識啓発に有効です。



めざせ！三方よし広報

■ イベントの広報～「三方よし」の広報

イベント開催＝広報と言えるほど、イベント開催に当たっては「広報」はポイントになります。言うならば「イベント主催者及び出展者」、「参加者」、そしてイベントが開催される「地域社会」それぞれにとって、広報はより良いものである「三方よし」の広報が求められます。そのような意味からも広報の目的は多様です。

【主催者、出展者にとって】

- ・イベント開催の趣旨、目的を人々に理解してもらう。
- ・その上でより多くの人にイベント開催し、イベントに集まつてもらう。
- ・より多くの方に利用していただく。

【参加者にとって】

- ・イベント開催の趣旨、目的が分かりやすい。
- ・情報の入手方法が適切で無駄がなく、分かりやすい
- ・配布物が結果としてゴミとなり、持ち帰らなければならないケースが考えられるので、必要な物や情報かどうかが取捨選択できるような工夫が望されます。言い換えれば印刷物やノベルティも必要なものだけ参加者が持ち帰れる仕組みや工夫が大切であると考えます。

【地域社会にとって】

- ・地域社会への影響も考慮した広報が必要です。配布物がイベント開催場所や近隣に散乱するようなことがないよう、出来るだけ持ち帰って頂けるような印刷物やノベルティ等配布物の配慮が求められます。
- ・ガイドラインでは団扇（うちわ）を例に挙げていますが、配布されその日のうちにゴミとなってしまうことについて、どのようにすれば改善できるか工夫が必要です。
- ・工夫の結果、残念ながらゴミになってしまう場合、分別がしにくいものや、再生しにくい素材のものの選択は出来るだけ避ける必要があります。

以上のようにイベントの広報には莫大なエネルギーと資源が投入されてきただけに、様々な視点での配慮が必要です。特に地域でのイベントの場合は、膨大なチラシやポスターを使用してのPRを行ってきました。また、イベント当日に配布するノベルティなども活用してきました。この膨大なエネルギーと資源を、少しでもエコ・コンシャスなものにしたい、と私たちは考えています。

■印刷物について

(1)用紙

- ◆印刷物は、必要なもの、必要な部数を十分に検討して作成しているか
- ◆ウェブサイトやメーリングリスト、メルマガなどの活用も検討しているかどうか。

【印刷物をエコ・コンシャスにするには】

①用紙の種類

環境に配慮した紙には、主に再生紙、森林認証紙、非木材紙などがあります。

リサイクルの視点で古紙の有効活用は重要であるため、再生紙の活用は環境配慮によってこれまでつとも有効とみなされてきました。ところが再生紙を製造する方がバージンパルプから紙を製造するよりもエネルギーを必要とすること、また古紙の確保や安定供給、価格の問題なども含め、古紙の配合率については、その時代においてバランスよく配合していくことが大切であると考えられています。

一方で、再生紙がバージンパルプから製造された用紙よりも環境負荷がかかっているという事実を受け、環境配慮されたバージンパルプの存在が注目をされています。違法伐採による材料などが原材料として使用されていないことを第三者機関が認証する、森林認証制度に基づき製造されている、森林認証紙です。森林認証紙は違法伐採を防ぐ他、認証の規格において材料となる木々を伐採した後の植林も求めているため、持続可能な環境に対する取り組みになるとして評価を得ています。その他、木質原料を使用していない非木材紙の使用も効果的です。

バージンパルプ
木材などを原料として作られ、まだリサイクルされていないパルプの総称。

②用紙のサイズ

印刷用紙はA判、B判といった規格サイズがあり、規格サイズの印刷物を作れば用紙を有効に使うことができますが、変形サイズの印刷物を作ろうとすると、有効に紙を使うことができずに、余白ができてしまいます。

その結果、余白は切り落とされて端材となりリサイクルへまわされるか、廃棄物として処分されることになります。よって印刷物のサイズは、A4やB5といった規格サイズにすることが望ましいといえます。

ユニークな形や大きさの印刷物にすることによって、印刷物を持ち帰って頂けるようにする効果も期待されることがあります。紙のムダが出ることについて印刷会社やデザイン会社と相談することをお勧めします。

(2)インキと加工

①インキ

インキに含まれる石油系溶剤は揮発性有機化合物(VOC=Volatile organic compounds)であり、他の物質と反応して光化学スモッグなどの大気汚染の一因となります。(グリーン購入ネットワーク「オフセット印刷サービスガイドライン」より)そのため印刷物に使用するインキはできるだけ石油系溶剤の少ないものを使用することが望まれます。

現在通常の4色カラー印刷に使用されるインキのほとんどが、植物系溶剤の比率を高めたいわゆる「大豆インキ」です。印刷物を発注する際に使用の確認が出来たら、後で述べる印刷物への表示について印刷会社やデザイン会社へ依頼しましょう。また現在は石油系溶剤を全く使用しないインキ(ノンVOCインキ)も製品化、使用され始めています。印刷会社へ相談してみると良いでしょう。

②加工

印刷物等は印刷後、製本などの加工がされて最終的な製品になります。加工においては、リサイクルしにくい加工がされていないことが望ましいと言えます。樹脂コーティングやラミネート加工の他、プラスチックや金属などの留め具等を使ったものはリサイクルしにくいものとなるため、できるだけ避ける必要があります。ただし、長く使えるよう耐久性を向上させたり、大切に使ってもらうために美しさなど付加価値を加えるなどの目的がある場合などは、状況は異なります。

③印刷物への環境対応表示について

このような印刷物に対する紙やインキに対して配慮することができたら、積極的に印刷物へ表示していくことをお勧めします。そのことにより、来場者に対しイベントのエコ化について啓蒙できるだけでなく、イベント主催者や出展企業の環境に対する姿勢を示すことができ、CSR（企業の社会的責任）につながります。更に環境に配慮されていることで地域の環境にも貢献することができ、正に「三方よしの広報」となります。

（3）印刷物やノベルティグッズが捨てられない工夫

イベントに関連して配布される印刷物やノベルティは、残念ながら捨てられることに何ら疑問を感じず作られているケースが多いのが現状です。今後は、それらが捨てられない工夫をしていく必要があります。ここでは事例を挙げて説明します。

①来場者に選んでもらう方法

印刷物などを一箇所にまとめて展示し、その中から欲しいものを持ち帰っていただく方法です。主催者や出展者が印刷物を配布するのではなく来場者に選択する機会を与えることにより、欲しくないのにもらってしまい、その結果即ごみ箱行きになるといったことを防ぎます。

②ノベルティ等にクジなどを加える方法

例えば団扇などのノベルティにクジとして使うナンバーを印刷、イベント開催後にホームページ上で当選者の発表を行なう。これによって少なくとも団扇を自宅まで持ち帰ってもらうことが期待できます。

③長く使えるものにする方法

便利でこれからも使える、耐久性があるので今後も繰り返し使える、あるいはいいデザインなので取っておきたい…というように、製品そのものの内容や材質、デザインといった価値を見直すものにすることにより、継続して使っていただけることが期待できます。また内容においても「保存版」といったまた見たくなる情報を掲載しておくことも工夫の一つです。

■廃棄物となったときを想定する

せっかく製作した印刷物やノベルティグッズも、廃棄されてしまう可能性があります。その場合を想定した工夫が必要です。ひとつは「加工」のところで触れた、「リサイクルしやすくなっているか」ということですが、ここでは再び団扇を例に考えます。一般的にイベント等で、団扇はPP（ポリプロピレン）製の柄に紙を貼り合わせたものが多く配布されています。紙とPPが一緒になっているために分別もリサイクルもしにくい、といった欠点があります。これに対し柄の部分も紙製の団扇であれば、回収ができればリサイクルすることが可能です。そして生分解性プラスチックの柄を使用した場合は、万一どこかに廃棄されてしまった際、土に還っていくものとなります。竹製のものを使った場合も同様に自然に還ると言え、前述の「捨てられない工夫」のひとつとして、長く使いたいものにする効果も期待できます。いずれの場合も予算との兼ね合いがあるのが実情です。これらの場合も印刷会社やデザイン会社等と予算の中でどのような工夫ができるのか相談するのが良いでしょう。

【長く使える具体例】

エコラベルブック

平面的な1枚の印刷物を折ったり貼ったりして製本の仕組みが学べるアイディア。その場において親子で楽しめるだけでなく、家に帰ってから楽しむことも想定した例です。また、内容において何かあったときにまた見たい気持ちにさせる工夫が施されています。「捨てないで取っておく」気持ちにさせます。



クリアファイルになるバッグや封筒
イベントの際、資料などをまとめて渡される時、封筒や紙袋などに入れて渡されることがあります。しかしながらその封筒や紙袋にはプレミアム感や、もったいないから、あるいはまた使えるからとておこうという意識を持たせるものは決して多くありません。この例では封筒あるいはバッグに切り取り線がついており、それにしたがって切り取るとクリアファイルになる工夫です。
これにより、後で使えるものだからその場で捨てないで持ち帰ろうという気持ちにさせます。





横浜のイベントをエコにするネットワークの取り組み

■横浜のイベントをエコにするネットワーク

横浜のイベントをエコにするネットワークは、横浜で開催されるイベントを環境に優しいものにしようと立ち上がったネットワーク組織です。市民・企業・行政が協力して、ごみの削減など環境に負荷がかからないイベント運営の仕組みなどを研究・提言し、市民や企業の実践につなげていくことを考えています。

詳細はホームページへ⇒ <http://eco.yokohama150.jp>

【目的】

横浜で行われるイベントを、エコ・コンシャス（環境に優しい）なものにし、横浜のイベントではごみを捨てる人がいない、環境への負荷をかけないという文化をつくる。

【主な事業】

①エコイベントについての情報収集と調査研究

- ・エコイベントの手法についての調査研究
- ・エコイベントに関するツールの情報収集
- ・横浜のイベントについてのエコ・マニュアルの作成

②横浜のイベントをエコにするための側面支援

- ・イベントをエコにするための相談対応
- ・イベントをエコにするための情報提供（人・モノ、その他）

③横浜のイベントをエコにするための普及啓発活動



▲2008年1月28日の設立総会の様子

◆3ヵ年計画と目標

【2008年】

- ・モデルを実践し、ノウハウを蓄積する。
- ・エコイベントについての情報を収集する。
- ・関心のある団体・企業のネットワークづくり。
- ・「エコイベントマニュアル」を発行など。

【2009年】

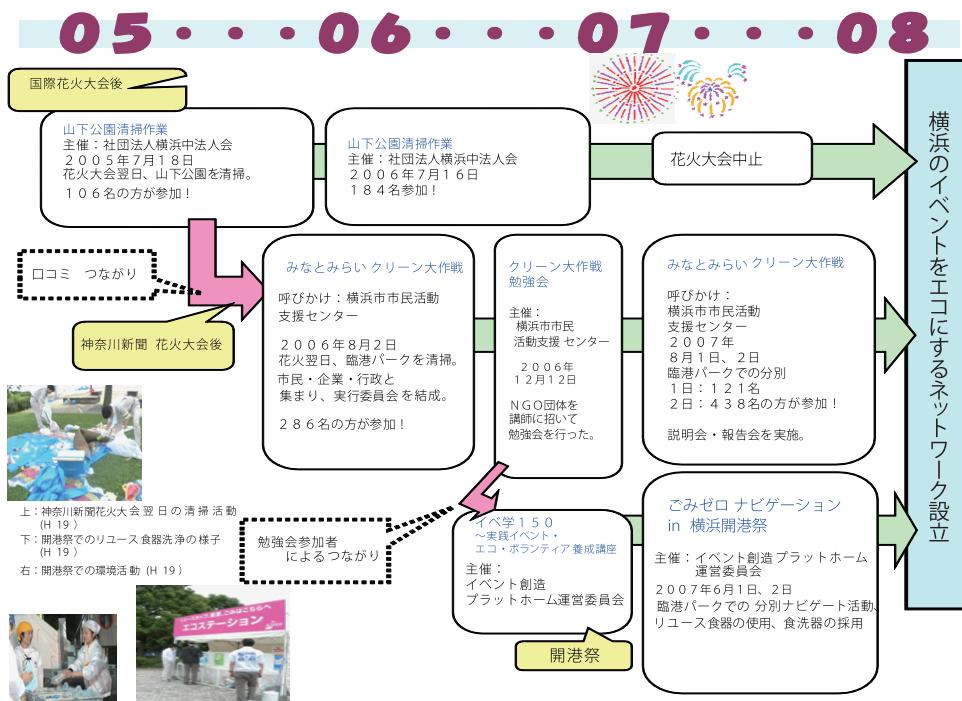
- 1年目で蓄積したノウハウ・情報をもとに、特に横浜開港150周年テーマイベントとの連携、関連イベントについての側面支援を行う。

【2010年】

- 多様なエコイベント主催や共催、そして側面支援の成果をもとにイベントの「横浜方式」を提案し、普及させる。

経緯

横浜で開催されるイベントを環境に優しいものにしようと、「横浜のイベントをエコにするネットワーク」が2008年1月に発足しました。市民・企業・行政、11団体が参加。設立のきっかけは、(株)近澤レース店社長の近澤さんが会長を務める中法人会が、2005年の国際花火大会の翌日、会場に散乱するごみの清掃活動を実施したこと。この自主的な活動に共感した横浜市市民活動支援センターが中心となり、翌2006年、神奈川新聞花火大会でみなとみらいクリーン大作戦を行いました。また、横浜開港150周年に向けて設置されたY150市民参加プラットホーム推進委員会（当時、イベント創造プラットホーム運営委員会）も横浜開港祭実行委員会などと連携して、イベント時のごみ分別回収などに取り組んできました。今回、「横浜のイベントは環境配慮型！」というメッセージをより広く、効果的に発信・連携しようと、それぞれの活動をつなげる「ネットワーク」が設立されました。



■様々なエコアクション

【横浜開港祭エコアクション】

横浜開港祭では主催者がエコステーションを設置、ボランティアにより、エコステーションの運営サポートとリユース食器の導入などのエコアクションを行った。

活動主体:Y150市民参加プラットホーム運営委員会(現Y150市民参加プラットホーム推進委員会)・事務局:財団法人横浜開港150周年協会

実施日:2008年6月1日(日)・2日(月) 10時~21時

実施場所:みなとみらい21地区 臨港パーク

活動内容:

○開港祭会場内6箇所でごみ分別ナビゲーションを実施。(生ごみ、紙、ビン、缶、ペットボトル、廃プラ(資源化)、廃プラ(焼却)、ペットボトルのキャップ、その他の9分別)

○リユース食器の洗浄機を設置し、カップのみリユース食器を使用。

○リユース食器を使用した店舗数:7店舗



▲横浜開港祭



▲ポートタウンフェスティバル



▲国際花火大会清掃活動

【国際花火大会清掃活動】

横浜国際花火大会の翌朝、清掃活動を行った。

活動主体:横浜中法人会 実施日:2008年07月21日(月) 7:00~

実施場所:山下公園 活動内容:清掃活動

【みなとみらいクリーン大作戦】

花火大会の会場における環境対策とごみの削減を通じて、観覧者が自発的にごみ削減等の社会問題を感じるきっかけを創り、市民・企業・行政と連携して社会問題に取り組むことで、協働のまちづくりの一歩として出会いと地域コミュニティを育むことを目的に実施。

活動主体:みなとみらいクリーン大作戦実行委員会(事務局:横浜市市民活動支援センター)

*実行委員会には22団体が参加:HSBC、NPO法人エコキャップ推進ネットワーク、(株)大川印刷、大塚製薬(株)、神奈川新聞社、情報誌ぱど、清水建設(株)、NPO法人自立・支援アリス、パシフィコ横浜、前田建設工業(株)、マツダ(株)、(株)横浜インポートマート、(財)横浜市資源循環公社、横浜信用金庫、(株)横浜みなとみらい21、横浜市資源循環局、西区役所、Y150市民参加プラットホーム推進委員会、クリーン大作戦学生部隊、横浜のイベントをエコにするネットワーク、横浜市市民活動支援センター運営委員会など

《分別ナビゲート活動》 参加者:56人(2008年度)

神奈川新聞社主催花火大会当日、エコステーションを設置し、花火観覧者への分別のナビゲート、ごみの分別の呼びかけを行った。

日時:2008年8月1日(金)15:00~21:30 会場:臨港パーク・ワールドポーターズ

《分別ナビゲート活動》 参加者:439人

花火の翌朝、花火大会メイン会場である臨港パークにて、市民・企業・行政等の一般参加者を募り、一斉に清掃活動をした。

日時:2008年8月2日(土) 8:00~10:00 会場:臨港パーク全域

ごみ回収量:ペットボトル:75.2キロ、ビン・缶:210キロその他:750.1キロ、ビニールシート:210.7キロ、
うちわ29.6キロ/合計:1275.6kg



▲みなとみらいクリーン大作戦

横浜のイベントをエコにするガイドライン09

発行人:横浜のイベントをエコにするネットワーク(会長 近澤 弘明)

編集:横浜のイベントをエコにするネットワーク ガイドライン部会

編集長 大川 哲郎 (Y150市民参加プラットホーム推進委員会)

編集者 土屋 真美子 (横浜市市民活動支援センター運営委員会)

高城 芳之 (横浜市市民活動支援センター運営委員会)

原田 雄一 (財団法人横浜市資源循環公社)

名倉 直 (Y150市民参加プラットホーム推進委員会)

森 由香 (ハッスル株式会社)



横浜のイベントを
にするネットワーク

デザイン:(特非)横浜コミュニティデザイン・ラボ

初回発行日:2008年12月10日 一部修正版発行:2009年5月13日

お問
合せ

横浜のイベントをエコにするネットワーク事務局 <(財)横浜開港150周年協会 Y150市民参加プラットホーム内>

TEL.045-489-4767 FAX.045-489-4768 E-mail: econet@yokohama150.jp

ホームページ:<http://eco.yokohama150.jp>